

「日本データベース学会 Letters」 初の自由投稿号の編集にあたって Editor's Message to the Publication of the First Issue of Submission-based DBSJ Letters

増永 良文[△]

Yoshifumi MASUNAGA

1. はじめに

「日本データベース学会 Letters」(以下, Letters) を刊行して, 今号 (Vol.2, No.3) は通巻 5 号となる。これまでの, 本会と連携して我が国のデータベースコミュニティの更なる発展のために日々奮闘している情報処理学会データベースシステム研究会 (以下, DBS 研) や電子情報通信学会データ工学研究専門委員会 (以下, DE 研) と共催, あるいは協賛してきたシンポジウムやワークショップから座長推薦というシステムで論文を Letters に収録してきた。ちなみに, 創刊号は DBS 研と DE 研が共同開催した夏のデータベースワークショップ 2002 (DBWS2002), Vol.1, No.2 は DBS 研が主催し本会が協賛した DBWeb2002, Vol.2, No.1 は DE 研と本会が共催した DEWS2003 / 第 1 回日本データベース学会年次大会, Vol.2, No.2 は DBS 研と DE 研が共同開催した夏のデータベースワークショップ 2003 (DBWS2003) からそれぞれ座長推薦で論文を採っている。Letters は季刊の論文誌として刊行しているが, 刊行の実績を積み上げるにつれ, 本会会員から自由投稿論文も受け付けてほしいとの強い要望を聞くようになった。Letters 「編集方針と投稿規程」第 4 条に記載のとおり, 本来自由投稿論文を受け付けることは編集方針に入っており, 問題は具体的にどのように投稿されてきた論文を処理するかにあった。そこで, 編集委員会は知恵を絞り, 「**一気方式**」なる新しい投稿論文査読方式を生み出し, それを実践することとした。

2. 一気方式

そもそも, Letters は「情報処理学会論文誌: データベース」(以下, TOD) とは異なり, 「**速報性**」に大きな比重を置いている。したがって, TOD が行っている, メタレビューとレビューの連係プ

レによる査読システムを仮に導入すると, 論文が投稿されて採否が決定し, そして印刷されるまでに, 長期間を要してしまう恐れがあり, それは Letters が標榜する速報性を阻害する要因となりかねない。一気方式はその弊害を克服して, 速報性を最大限に実現する方式で, 今号を例にとれば次のようである: 平成 15 年 9 月 25 日 (木) に電子投稿を締め切られた論文は, 即刻その PDF 版が編集委員全員に配信された。編集委員は予め時間の許す限りそれらを読み, ほぼ 2 週間後の 10 月 11 日 (土) にお茶の水女子大学で開催された編集委員会に全員が集結した。委員会は午前 10 時から午後 8 時半までかかり, 全てを査読して, 結果は「採録」か「不採録」の二者択一とした。ただ, 採録の場合でも「最終稿に是非反映させてほしいコメント」は必要とあらば付けたが, 従来よくある「条件付採録」という査読結果はない。表現を変えれば, そのままでは採録できないが, 付けたコメントは著者の力量を勘案すればきっと最終稿に反映され, Letters の論文としての品質 (quality) を確保してくるであろうと想定される論文はコメント付きで採録とした。著者には 10 月 16 日 (木) に採否を電子メールで通知して, 採録論文に対しては最終稿の提出締め切りを 1 ヶ月後の 11 月 17 日 (月) とした。論文誌の発行は 12 月 18 日 (木) である。

3. 投稿から刊行まで 2 ヶ月半余

その結果, **投稿から採否の決定まで 3 週間, 採録された論文については投稿から Letters に掲載されるまでに 2 ヶ月半余しかかかっていない**。論文に求められた速報性を, 迅速な査読体制と編集体制がそれに応えている。

4. おわりに

一気方式の査読は編集委員に過酷な仕事を課すこととなったが, 委員一同よく頑張った。Letters と TOD が車の両輪のごとくうまく機能することによって, 本来本会が掲げている我が国のデータベースコミュニティの裾野を広げ, 更なる発展に資することは間違いのないと信ずる。今後は, 毎号, 自由投稿論文を受け付けていく。会員の皆様には, 随時, 研究の最前線を「日本データベース学会 Letters」に投稿されることを期待する。

増永 良文 Yoshifumi MASUNAGA

お茶の水女子大学理学部情報科学科教授。1970 東北大学大学院工学研究科博士課程修了, 工学博士。データベースシステムの研究・開発に従事。情報処理学会フェロー。電子情報通信学会フェロー。日本データベース学会会長。著書に「リレーショナルデータベース入門[新訂版]」(サイエンス社)など。

[△]日本データベース学会論文誌編集委員会委員長
正会員 お茶の水女子大学理学部情報科学科
masunaga@is.ocha.ac.jp